

TS（トータル・サティスファクション）を目指して②

「最後に勝敗を分けるのは人間力」

校長室担当より

今年度から学校教育目標を変更しました。児童生徒も教職員も同じ目標に向かって進んでまいります。それは、「出逢いに感謝し、自他を大切にしながら、学び続ける人間力を育成する。」です。このキーワードは「感謝」「謙虚」「素直」の3つです。これらについてはすでにお伝えしました。今回は、最後に加えてある「人間力」についてお伝えします。

どこで仕事をしていようと、どんな仕事をしていようと、際立って輝いている人が必ずおられます。私の今の職場においても、年齢に関係なく「ああ、こんな人になりたいな。」と思える方と毎年出会います。その方々は、専門性の有無に関わらず、すべて「人間力」のある方々です。「人間力」のある方とはどんな方なのかということをおなりに考えてみた時に、今からご紹介する「ある無名兵士の詩」を心から理解できる方だと感じています。もしかしたら一度は耳にされたことがあるかもしれませんが、今一度御鑑賞ください。

大きなことを成し遂げるために、強さを与えてほしいと神に求めたのに、

謙遜を学ぶように、弱さを授かった

偉大なことができるようにと、健康を求めたのに、

よりよきことをするようにと、病気を賜った

幸せになるために、富を求めたのに、

賢明であるようにと、貧困を授かった

世の人々の称賛を得るために、力と成功を求めたのに、

得意にならないようにと、失敗を授かった

人生を楽しむために、あらゆるものを求めたのに、

あらゆるものをいつくしむために、人生を授かった

求めたものは、一つとして与えられなかったが、願いはすべて聞き遂げられた。

私はもっとも豊かに祝福されたのだ

少々宗教的な匂いがあるかもしれませんが、私は考え方に共感することはあっても、特定の宗教に左右されるタイプの間人ではありません。この詩は別に聖書等の一節でもなく、ニューヨーク州立大学病院リハビリセンターの壁に書かれている作者不詳の詩と聞いています。通勤途上の車の中でこの詩を時々思い出して口にすることを私は習慣にしていますが、「人間力」のない私に全部は難しいので下線部だけを思い出そうにしています。口に出してみると、言葉の力を強く感じる詩です。

結局、この詩に一貫して表現されていることは、自分に起こるすべての出来事が自分が成長するために必要なことばかりであるという考え方です。皆さんはこの考え方を引き受けることができるでしょうか。これができる方こそが「人間力」のある人だと思います。自分一人だけの人生では気づかなかったことを、児童生徒を含め、周りの皆さんに気づかせてもらっているという感覚です。これを手にすることができれば、人間は自然に学び続け、成長していくことができますよね。人生の勝敗を最後に決めるのは「人間力」。私も自分が死を意識することがあった際にこれを痛感しました。これを私たちだけでなく児童生徒も身に付けることができるような、そんないい学校をつくりましょう、一緒に。(令和4年6月8日)

本校教職員として目指す方向性（確認）

※令和3年4月1日にお願ひしたこと

- 1 トータル・サティスファクションの実現
- 2 学びに向かう力をもつモデルを率先垂範
- 3 対話とパートナーシップに基づく行動
- 4 全教職員で全校の児童生徒を見守るチームの実現
- 5 「今さえ、ここさえ、自分さえよければいい」の考えを戒める